

デーリー東北

THE DAILY TOHOKU

2018年(平成30年)

12月18日(火)

(旧暦11月12日) 仏滅

一 東 北

2018年(平成30年)12月18日(火曜日)

第二社会

(22)

北田さん(東通) 大西洋横断ヨットレース

相次ぐ故障乗り越切る

大西洋約6400キロをヨットで単独横断するフランスの国際レース「ルート・デュ・ラム」(11月4日～12月7日)に初出場し、アジア勢として初完走を果たした東通村の会社経営、北田浩さん(54)。17日までの本紙取材に「順位は不本意だが、タイムリミットまでに完走できて幸いだ」と、1カ月にわたる過酷なレースを振り返った。

(橋端智和)

「完走できて幸い」

北田さんは単胴船のカテゴリ「クラス40」に出場。同国北西部の港町サン・マロをスタートし、ゴールとなるカリブ海南部の群島グアドループに12月6日に到着した。順位は途中棄権の18艇を除く35艇中34位だった。

「天候や船のトラブルなど想

定外のことが多かった」と話す

ように、レースは波乱の展開に。現地の気象予報が大きく外れたことも、作戦を立てられず苦戦する要因になった。

強風で推進力を得るための帆が破損し、時速が本来の7割程度までしか出せなくなったほか、風向風速計を喪失。船体へ

の電力供給源の一つである水力発電機も壊れた。終盤には左舷のかじが故障してコントロール不能に。大会終了期日が迫る中、発電用燃料も底を尽きそうになった。

途中棄権してもおかしくない状況に陥ったが、「スタッフや声援を送ってくれた人たちが落胆させたくないという思いが原動力になった」。

何が何でも完走すると腹を決め、故障したかじを修理し、損傷した帆を縫って補強。だましだましの応急処置のため、再び故障や損傷の恐れがあったが、何とかゴールまで持ちこたえ、「完走して日本人としての足跡を残す」という念願をかなえることができた。

今後の目標については「自分の活動を続けながら、後進の育成、指導もしていきたい」と語った。



ゴールのグアドループに到着後、クラス40の出場者から祝福を受ける北田浩さん(中央) 11月6日(北田さんが代表を務める日本オーシャンレーサー協会提供)